

- 4) 看護ケアや医療処置を実施する場合は、プリセプター等と相談し、指導をうけ実施する。
- 5) プリセプターの第一線のケア技術を見学し、指導を受ける。
- 6) 必要に応じて関連知識の自己学習をしておく。

2. プリセプターの役割

- 1) 調整：研修者が研修目標を達成できるよう、研修者の学習ニーズに基づき、学習環境を整える。また、研修者と患者、家族との仲介をし、研修に関する倫理的配慮を行う。
- 2) ロールモデル：研修者がケアスキルアップするため、専門的かつ最新の技術を示し、必要に応じて説明する。
- 3) 指導：研修者と定期的に打ち合わせを行い、研修の進捗状況を把握し、研修目標が達成できるよう指導・助言する。研修者が看護ケアや医療処置を実施するにあたっては、充分に話し合い、安全に行えるよう指導する。

IX. レポート

研修者は、研修終了後に以下の内容を含むレポートを提出する。

- 1) 内容
 - ①自分の研修目的・内容とその達成状況について
 - ②研修を施設でどのように活用していくか
 - ③今後の自分の課題
- 2) 書式 A4版、横書き、2～3枚（引用、参考文献を含む）
ワープロ書きが望ましい。ワープロの場合はフォントサイズ 10.5～12 を使用
- 3) 提出期限 青森県立中央病院で研修した方 平成 15 年 10 月 24 日(金)
十和田市立中央病院で研修した方 平成 15 年 12 月 5 日 (金)
- 4) 提出先 〒030-8505 青森市浜館字間瀬 5 8 - 1
青森県立保健大学看護学科
出貝 宛（所定の封筒を使用し郵送）

X. アンケート調査

研修の成果および研修後の継続性などについてアンケート調査を実施する。

1. 研修者

- ① 研修最終日
- ② 研修終了2ヵ月後

2. 看護管理者

- ① 研修終了2ヶ月後

なお、調査用紙は後日郵送する。

X I. 事故発生時の対応

研修者は、事故が起きないように安全には充分留意して研修する。万が一、事故が発生した場合は、直ちにプリセプターに報告し、プリセプターは必要に応じて、管理者へ報告すると共に、研究者にも連絡をする。

X II. 倫理的配慮

1. 研修者は看護職としての倫理を遵守しながら研修を行う。
2. 本実地研修は、厚生労働科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）の助成を受けて行う研究の一部であり、以下の資料を事業評価として研究に活用する。なお、研修者・研修者派遣施設管理者および実施施設の指導者に対し、研究の目的、方法、プライバシーの保護等を十分説明し、了解を得て実施する。また、データは、個人や施設名が特定されることのないよう配慮する。

事業評価活用資料

- ・レポート
- ・アンケート調査
- ・グループディスカッションの内容

研修施設

青森県立中央病院



青森県立中央病院

〒030-8553

青森市東造道二丁目1番1号

電話 017-726-8111 (代表)

看護局長：板橋玲子

研修担当者：看護局次長 加賀谷迪子

研修プログラム <青森県立中央病院>

	時間	研修内容	担当者	場所
10月1日(水)	9:00	集合・更衣		総合受付
	9:30~10:00	打ち合わせ・実習オリエンテーション	小山、中村(研究者)	カンファレンスルーム
	10:00~11:00	病院紹介 施設見学	板橋看護局長 加賀谷看護局次長	
	11:00~12:00	プリセプター紹介 病棟研修	プリセプター	各病棟
	12:00~13:00	昼食休憩		食堂もしくは 病棟
	13:00~13:40	講義 「感染予防」 「倫理的判断」	田中主幹看護師 増山看護指導監	カンファレンスルーム
	13:20~16:00	病棟研修		各病棟
10月2日(木)	9:00~12:00	研修		各病棟
	12:00~13:00	昼食休憩		食堂もしくは 病棟
	13:00~13:40	講義 「褥瘡ケア」 「看取りのケア」	松橋主任看護師 三津谷看護班長	カンファレンスルーム
	13:15~16:00	研修		各病棟
10月3日(金)	9:00~12:00	研修		各病棟
	12:00~13:00	昼食休憩		食堂もしくは 病棟
	13:00~13:20	講義 「リスクマネジメント」	カ最上看護指導監 ゼ 初川リスクマネジャー	カンファレンスルーム
	13:20~14:00			
	14:00~14:45	研修者グループディスカッション (研修者と研究者)		カンファレンスルーム
	14:45~15:15	プリセプターグループディスカッション (プリセプターと研究者) 研修者はアンケート記入等		
	15:15~16:00	合同ディスカッション (研修者・プリセプター・班長・研究者)		

研修者配置及び担当プリセプター氏名

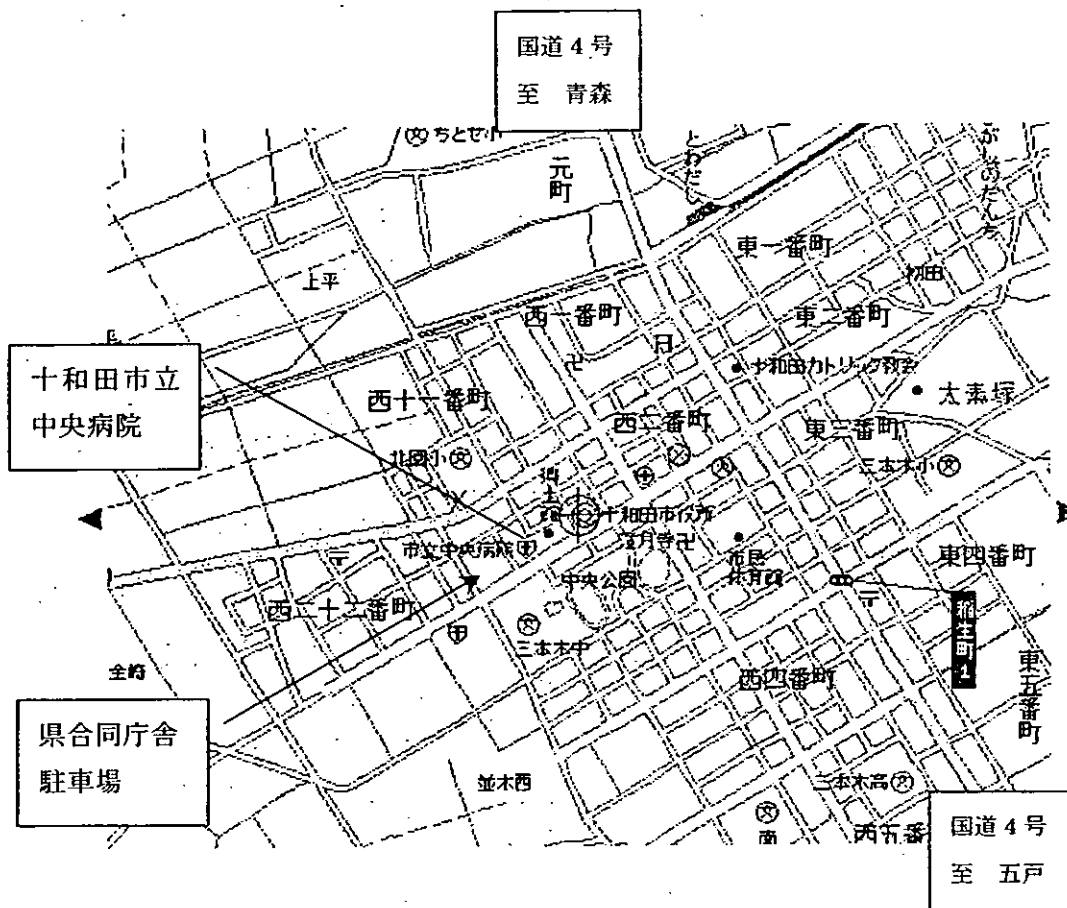
研修者 (所属)	主な研修希望内容	病棟 (電話)	プリセプター	病棟班長
伊藤 美弥子 (介護老人保健施設 ニューライフ芙蓉)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 症状観察 ・ 症状アセスメント ・ 緊急時の対応 	7階西病棟 泌尿器科・内分泌 内科 (017-726-8071)	赤平 敦子	三津谷 キヨ
山下 敦子 (介護老人保健施設 ほほえみ三戸)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療処置 ・ 感染管理 ・ 安全管理 		松橋 ひとみ	
柳谷 恭子 (特別養護老人ホーム あじさい)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 症状アセスメント ・ 緊急時の対応 ・ 看取りのケア 		蛭沢 功子	
荒川 志穂 (介護老人保健施設 平成の家)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 症状アセスメント ・ 痴呆への対応 ・ リスクマネジメント 	9階西病棟 脳神経外科、神経 内科、歯科 (017-726-8091)	木村 みどり	増山 静子
伊藤 智則 (介護老人保健施設 希望ヶ丘ホーム)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 症状アセスメント ・ 痴呆への対応 ・ リスクマネジメント 		工藤 好子	
三浦 文子 (特別養護老人ホーム あしの園)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急時の対応 ・ リハビリテーション ・ 痴呆への対応 		工藤 照子	

その他

- 1) 研修前に、各病棟の主な疾患の看護の他、自施設での感染予防、リスクマネジメントの取組み状況を自己学習して臨んでください。
- 2) 研修初日の集合場所：正面玄関 総合受付
9:30 オリエンテーション (研究グループ)
- 3) 欠席などの連絡：看護局次長 加賀谷迪子 017-726-8351
- 4) 服装：ユニフォーム (看護衣、ナースシューズ)
- 5) 控え室および会議室：3階カンファレンスルーム (ICU隣)
- 6) 昼食：職員食堂を利用できます。
- 7) 駐車場：一般駐車場を利用できます。(無料券配布)
- 8) 名札：研修者の名札をつける (研究グループ準備)

研修施設

十和田市立中央病院



十和田市立中央病院

〒034-0093

十和田市西十二番町 14-8

電話 0176-23-5121 (代表)

総看護師長：中島玲子

研修担当者：副総看護師長 今泉悦子

研修プログラム <十和田市立中央病院>

	時間	研修内容	担当者	場所
11月12日 (水)	9:15	集合		総合案内
	9:15~9:30	更衣		
	9:30~10:00	打ち合わせ・実習オリエンテーション	今泉副総看護師長 中村、吹田 (研究者)	
	10:00~10:30	病院紹介	中島総看護師長	
	10:30~11:00	施設見学	今泉副総看護師長	
	11:00~12:00	プリセプター紹介 病棟研修	プリセプター	
	12:00~13:00	昼食休憩		会議室
	13:00~14:30	病棟研修	プリセプター	
	14:30~15:30	「リハビリテーション」	理学療法士・ 作業療法士	
15:30~16:00	本日の反省会と翌日の計画調整	今泉副総看護師長 吹田 (研究者)	会議室	
11月13日 (木)	9:30~12:00	病棟研修	プリセプター	
	12:00~13:00	昼食休憩		会議室
	13:00~14:30	病棟研修	プリセプター	
	14:30~15:00	講義「医療安全」	今泉副総看護師長	会議室
	15:15~15:45	講義「感染対策」	小又副総看護師長	会議室
	15:45~16:00	本日の反省会と翌日の計画調整	今泉副総看護師長 吹田 (研究者)	会議室
11月14日 (金)	9:30~12:00	病棟研修	プリセプター	
	12:00~13:00	昼食休憩		会議室
	13:00~13:30	講義「訪問看護」	和島副総看護師長	会議室
	13:30~14:00	講義「褥瘡」	今泉副総看護師長	会議室
	14:00~14:45	研修者グループディスカッション (研修者と研究者)		会議室他
	14:45~15:15	プリセプターグループディスカッション (プリセプターと研究者) 研修者はアンケート記録等		
	15:15~16:00	合同ディスカッション (研修者・プリセプター、看護師長・研究者)		

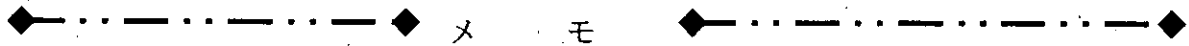
研修者配置及び担当プリセプター氏名

研修者 (所属)	主な研修希望内容	病棟	プリセプター	病棟看護師長
木村 祥子 (特別養護老人ホーム 長老園)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 症状アセスメント ・ 看取りのケア ・ 倫理的判断 	東3A病棟 糖尿病、肝臓疾患、 ターミナル期	道股 恵理子	横山 裕子
稲垣 久美子 (特別養護老人ホーム 寿楽荘)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染管理 ・ 安全管理 ・ リスクマネジメント ・ 倫理的判断 	東2病棟 消化器外科	横田 優子	小林 秀子
石倉 咲子 (介護老人保健施設 みのり苑)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療処置 ・ 痴呆への対応 ・ 感染管理 	東4病棟 呼吸器内科、 脳疾患(慢性)	及川 春江	千葉 睦子
鈴木 知佐子 (介護老人保健施設 サンライフ豊寿苑)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 症状アセスメント ・ リハビリテーション ・ 痴呆への対応 	東4B病棟 脳外科	下山 美智子	橋本 明美
笹原 節子 (特別養護老人ホーム 天寿園)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療処置 ・ 緊急時の対応 ・ 感染管理 	東3B病棟 循環器内科、皮膚科	姥名 洋子	松本 誠子

その他

- 1) 研修前に、各病棟の主な疾患の看護の他、下記の内容を自己学習して臨んでください。
 - ① 緊急時の対応として施設では何が必要とされているのか、自分が分からないこと、学習したいことは何か明確にすること。
 - ② 看護計画(特に退院サマリー)について、病院看護師とお互いに意見交換できるように見直す。
- 2) 研修初日の集合場所： 9:15 総合受付(正面玄関より入る)
9:30 オリエンテーション
- 3) 欠席などの連絡：副総看護師長 今泉悦子 (0176-23-5121 内線670)
- 4) 服装：ユニフォーム(看護衣、ナースシューズ)
- 5) 控え室および会議室：2階会議室
- 6) 昼食：2階会議室でおとりください。食堂は利用できませんので各自で準備してください。

- 7) 駐車場：病院の駐車場は利用できません。車でおこしの際は、病院隣の青森県合同庁舎駐車場を利用してください（無料）。
- 8) 名札：研修者の名札をつける（研究グループ準備）



青森班担当者

青森県立保健大学健康科学部看護学科

研究代表者 中村 恵子

小山 敦代・吹田夕起子

出貝 裕子

*

〒030-8505 青森市浜館字間瀬 58-1

青森県立保健大学健康科学部看護学科

電話 017-765-2000 (代表)

017-765-2058 (出貝)

FAX 017-765-2059

*

2003年9月作成

高齢者ケアスキルアップ実地研修の実施と評価（青森）

I. はじめに

介護保険開始から3年が経過し、高齢者介護に係る施設の整備と介護サービスの充実が図られてきた。しかしながら、専門的知識・技術と豊かな人間性を兼ね備えた資質の高い人材の育成については、教育機会の不足や指導教育担当者の不足などにより、まだ課題が残されたままである。また、昨今医療依存度の高い利用者、要介護度の高い利用者が介護保険施設に増加していることに伴い、現状にみあったサービスを提供できる人材を育てる必要性が高まってきている。

我々は、平成14年度に介護保険施設の看護職の質的向上をめざし、教育的機能をもつ地域医療支援病院等の協力を得て、高齢者ケアスキルアップ実地研修を4地区で開催した。平成15年度は、厚生労働省科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）の助成を得て、高齢者ケアスキルアップ研修のプログラムの精錬と普及・拡大を目的に、全国3地域で、計6回実地研修プログラムを実施することとなった。

本稿では、青森地区における実地研修プログラムの運営と評価から実地研修プログラムの今後の課題を検討する。

II. 実地研修プログラムの概要

1. 研修のねらい

実地研修を通して看護職の専門的スキルを習得することによって、施設における高齢者ケアの質的向上をめざす。

2. 研修目標

- 1) 高齢者の観察およびアセスメント能力を身につける。
- 2) 高齢者に多い医療処置に対する看護職としての関わり方を身につける。
- 3) 高齢者の看取りのケアについて再考する。
- 4) リスクマネジメントの考え方を習得し、その実際を学ぶ。
- 5) 高齢者の人権と尊重と倫理的対応の実際を学ぶ。

3. 研修対象者

介護老人保健施設、介護老人福祉施設に勤務する看護職

4. 研修施設及び研修期間

- 1) A：青森県立中央病院 平成15年10月1日（水）～10月3日（金）3日間
- 2) B：十和田市立中央病院 平成15年11月12日（水）～11月14日（金）3日間

5. 研修内容

症状観察、症状アセスメント、医療処置、緊急時の対応、看取りのケア、リハビリテーション、痴呆への対応、感染管理、安全管理、リスクマネジメント、倫理的判断
ミニ講義：褥瘡ケア、感染管理、リスクマネジメント、看取りのケア、倫理的判断、リハビリテーションなど

6. 研修方法

研修者は、自己の希望する内容や課題を達成できるよう、プリセプターと共に、高齢者の看護ケアや医療処置を体験、実施する。体験できないものは見学するか、説明を受ける。

7. 研修者の役割

- 1) 研修者は、自己の課題や希望を達成できるようにプリセプターや看護師長に申し出て、積極的な研修に努める。
- 2) プリセプターの助言を受けながら学習機会を積極的に活用する。

- 3) 研修中にうまくいったこと、困ったこと、負担に思ったことなどはプリセプターに相談し、指導や助言を受ける。
 - 4) 看護ケアや医療処置を実施する場合は、プリセプター等と相談し、指導を受け実施する。
 - 5) プリセプターの第一線のケア技術を見学し、指導を受ける。
 - 6) 必要に応じて関連知識の自己学習をしておく。
8. プリセプターの役割
- 1) 調整：研修者が研修目標を達成できるよう、研修者の学習ニーズに基づき、学習環境を整える。また、研修者と患者、家族との仲介をし、研修に関する倫理的配慮を行う。
 - 2) ロールモデル：研修者がケアスキルアップするため、専門的かつ最新の技術を示し、必要に応じて説明する。
 - 3) 指導：研修者と定期的に打合せを行い、研修の進捗状況を把握し、研修目標が達成できるよう指導・助言する。研修者が看護ケアや医療処置を実施するにあたっては、十分に話し合い、安全に行えるよう指導する。

Ⅲ. 事前準備と実施までの経過

1. 研修者の募集及び選定・事前準備

県内 131 ヶ所の介護老人保健施設・介護老人福祉施設に県内 2 ヶ所で行う実地研修の案内を送付したところ、15 施設 16 名からの参加申込みがあった。研修参加申込みにあたっては、研究希望施設、特に学びたい研修希望項目上位 3 項目、研修希望動機・自己の研修課題について記載してもらった。参加申込者の実習希望施設は、A 施設 9 名、B 施設 7 名であった。研修者の選定は、看護師であること、実際にケアに携わっていること、研修目的が明確であること、年齢・経験年数等から他スタッフへの影響力があると考えられることなどを基準にしながら、A 施設 6 名、B 施設 5 名、計 11 名を選定し、研修 1~2 ヶ月前までに研修者の決定通知を送付した。また、研修前には実施要項を送付し、事前に実習病棟、プリセプター氏名、事前学習内容等の連絡を行った。

2. 研修施設の確保・事前準備

研修施設は、介護保険施設と病院との連携、研修機能という視点を考慮し、県内 2 ヶ所の地域医療支援病院とした。2 施設とも看護学実習施設ではあるが、現任の看護職員に対する教育は行っていなかった。そこで、看護管理者、実地研修担当者に対し実地研修の必要性、内容を充分説明し、協力を得た。そして、研修目標に合わせてそれぞれの研修施設で、オリエンテーション、ミニ講義の内容等をアレンジし、研修スケジュールを組んでもらった。また、研修病棟及びプリセプターについても、それぞれの施設から研修者の研修ニーズを満たすことができるよう考慮しながら選定してもらった。

A 施設では、看護学生の実習期間と重なりがあったため、研修病棟は内科病棟と外科病棟の 2 ヶ所とし、研修者及びプリセプターをそれぞれの病棟に 3 名ずつ配置した。プリセプターは、主任看護師、実習指導者、中堅看護師が担った。

B 施設では、内科・外科病棟 5 ヶ所に研修生を 1 名ずつ配置し、それぞれの病棟の主任看護師がプリセプターを担った。

3. プリセプターとの打ち合わせ

最初に実施した A 施設では、施設の実地研修担当者、病棟看護師長を介して、プリセプターに実地研修の内容を説明してもらった。しかし、研修終了後、プリセプターが研修に対するさまざまな不安を抱いていたことがわかったため、2 回目の B 施設に対して

は、事前に大学側（研究者）がプリセプターと研修内容や研修者の情報について事前打合せを行った。

IV. 実施

1. 実地研修

A施設では、6名の研修者が参加し、病棟での実地研修のほか、「感染予防」「倫理的配慮」「褥瘡ケア」「看取りのケア」「リスクマネジメント」のミニ講義をそれぞれ20分間行った。内科病棟は、入院者が多い期間であったが、3名のプリセプターが協力しながら3名の研修者の指導にあっていた。一方外科病棟では、マンツーマン体制で指導にあたり、研修者の体験したい内容を確認しながら、実施できるよう調整を行っていた。

B施設では、5名の研修者が参加し、病棟での実地研修のほか、「リハビリテーション」の見学・講義1時間、「医療安全」「感染対策」「訪問看護」「褥瘡」のミニ講義をそれぞれ30分間行った。プリセプターは、研修者の体験したい内容を確認しながら、実施できるよう調整を行っていた。また、研修時間の最後に「本日の反省と翌日の計画調整」の時間を設け、施設の実地研修担当者が、研修者全体の意見を吸い上げ、翌日の体験内容の調整を行い、希望する内容が実施できるよう配慮していた。

2. 面接調査等の実施

研修最終日に、研修に対する率直な意見を伺い、研修プログラムを評価し、今後の課題を明らかにするために、研修者、プリセプターの各グループに分かれて30～45分程度のグループディスカッションとアンケート調査を実施した。また、研修者には研修終了後にレポートも提出してもらった。さらに、研修者とその所属施設の管理者に対し、研修2ヵ月後に研修に関するアンケート調査を実施した。研修者及びプリセプターには、レポート、アンケート調査、グループディスカッションの内容を事業評価に活用すること、データは、個人や施設名が特定されないことがないようプライバシー保護を遵守することを十分説明し、了解を得た。

V. 結果

1. 研修終了後のアンケート

研修終了後のアンケート調査の結果は、表1のとおりであった。研修の目的が達成できたかどうかの5段階評価では、研修者は「とてもそう思う」5が1人（0.9%）、4が10人（90.1%）であり、プリセプターは、5が1人（0.9%）、4が4人（36.4%）、3が6人（54.5%）であった。研修者は希望した研修内容を全て学習することはできなかったが、様々な気づきや自分自身の課題の達成ができたことから概ね8割は達成できたと評価していた。一方プリセプターは、研修者が目標を達成できたかどうかの評価を研修者の目的意識や研修希望項目の達成状況から判断していた。目的意識があり、それを実施できるよう関わることができたプリセプターは評価が高かったが、「具体的な目標が見えなかったため、どこまで達成できたかわからない」、「研修者がどんな目標を持ちながら研修に臨んでいたのかあまり把握できなかった」、「対象者がいなくて、学びたいと思う項目を十分体験できなかった」など、研修者の目的意識が伝わらない、希望項目が体験できなかったと感じたプリセプターは、評価が低かった。

研修は今後の実践に役立つと思うかどうかを研修者に尋ねたところ、「とてもそう思う」5・4と回答した者が10人（90.1%）であった。一方プリセプターに、この研修は、あなたにとって何か役立つことがあったかを尋ねたところ、「とてもそう思う」5・4が9人（81.8%）であった。研修者は、「病院と施設との違いはあったが、応用できることが

多くあった」、「とてもよいきっかけになった」「処置やマニュアル作成等に生かして生きたい」など、短い研修ではあったが、実践に役立てていきたいと述べていた。プリセプターは、「他施設の情報・ケアに対する工夫などを知ることができ参考になった」、「管理面の見直しの機会にもなり、自分自身も学習の場とすることができた」など、情報交換の機会、自分自身のケアや病棟の管理を見直す機会になったという意見が多く挙げられていた。

表1. 研修後のアンケート調査

評 価		研修目的の達成		研修は今後の実践に役立つか (研修者)	研修は、あなたにとって何か役立つことがあったか (プリセプター)
		研修者	プリセプター		
とてもそう思う	5	1人	1人	7人	5人
	4	10人	4人	3人	4人
	3	0人	6人	1人	2人
	2	0人	0人	0人	0人
全くそう思わない	1	0人	0人	0人	0人

表2. 達成度 回答理由 (研修者 11名)

評価 (5段階)	回答数	理 由
5	1	<ul style="list-style-type: none"> 施設で行なっていることとの違いがわかり大変勉強になった。 講義内容はテーマが適切で内容もわかりやすかった。
4	10	<ul style="list-style-type: none"> 症状アセスメント、緊急時の対応はかえって脳外科の方だと学習見学体験できたのではないかと思う。 急性期施設におけるターミナルケアの記録だけでは詳しい患者さんの情報が得られなかった。 糖尿病について知らなかったことを得た。 積極的になれなかった。 痴呆に関しては機会がなかった。 リスクマネジメントについては講義+病棟内スタッフの実施にて学ぶことができた。 病院で細かい指導を受け、施設で行なっていた処置の間違い等に気づき勉強になった。 病院と老健の関係などについて考えることができた。 痴呆への対応について病院では治療優先であり期待していたものとは違った。 講義を受けたものを実際に病棟で見学や体験ができてよかった。 プリセプターの方だけでなく、他のスタッフの方々も協力してくださり自分が思っていた以上に達成できた。 すぐ実行できそうなものは口腔ケアの部分で、実践していきたいと思う。 これから何をすべきかが少し見えたような気がする。 他施設の方々とも意見交換ができ、有意義だった。 まだ整理できていない。
3	0	
2	0	

1	0	
---	---	--

表3. 達成度 回答理由 (プリセプター11名)

評価 (5段階)	回答数	理 由
5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・研修者が積極的な姿勢であったので、とても良い受け入れができたと思う。
4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・目的があり、それを実施することができたように思う。 ・病棟で行われているケアの現状を知ることができた。 ・講義を通して考え方を学ぶことができた。 ・目的意識が非常にはっきりと伝わってきた。 ・実習の中で多くの質問があった。 ・当病棟スタッフやご家族の協力により、環境調整がよくできた。
3	6	<ul style="list-style-type: none"> ・主な研修希望内容の学習ができなかったと思う。 ・研修者がどんな目標を持ちながら研修に臨んでいたのかあまり把握できていなかった。 ・病院（当科）で行われている看護ケアや処置は直接結びつかないものであったのではないか。 ・時間的にゆとりのないケアが行われていたので研修者も巻き込まれ、目的項目に応じられない所もあった。 ・一通りの業務的なことや安全管理の面で参考になったところがあればと思う。 ・3日間での短い期間では十分ではなかったと思う。
2	0	
1	0	

表4. 実践に役立つか 回答理由 (研修者 11名)

評価 (5段階)	回答数	理 由
5	7	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアル作成、上記目的に関して即実践できます。 ・糖尿病の指導、ウロストーマの施設としての受け入れ、褥瘡処置、陰部洗浄後の乾燥等すぐ他の職員に伝えて実行したい。 ・今すぐできる口腔ケアを始め、体位交換、体交枕の使用方法など、とても身近なケアを教えて頂いた。 ・たくさんの気づきがあり、勉強していかなければならないと気が引きしまった。 ・エアーマットの種類・用法などを聞き、必要性を実感し考えさせられました。 ・事故防止のための工夫、スムーズに作業ができるようにと物を作ったり、活用したい部分が多くあった。
4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・施設長や事務サイド、寮母サイドに提案したりして必要と思うものは取り入れていきたいと思う。 ・脳神経について自分の苦手分野を学ぶことができたので役立つと思う。 ・技術面では施設内では指導する立場にいるので、日々向上に努め

		たい。 ・サマリー、温度表の利用、口腔ケアなど施設でも活用できるものでした。今後、病院で学んだ事を活かしていきたいです。
3	1	・施設でも充実したリスクマネジメントを全職種で取り組み実践できるようにしていきたい。
2	0	
1	0	

表5. 実践に役立つか 回答理由 (プリセプター11名)

評価 (5段階)	回答数	理 由
5	5	<ul style="list-style-type: none"> ・他の施設の情報・ケアに対する工夫などを知り情報交換できる機会となりよかった。 ・学生とは違って、臨床経験があるのでいろんな視点での質問があり、病院としての役割・特徴を再認識できたと思う。 ・褥瘡について、自己学習する機会となった。 ・研修者の目的意識が高く、大変良い刺激となった。 ・施設内での患者様の過ごし方や看護者の活動、ケア内容を教えてもらい施設に対する私の偏見があったことに気がついた。
4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・他部門で必要とされている情報と当現場からの情報のギャップを見直す機会となった。 ・Pt 急患や変化における Nrs の判断、対応の重さが病院以上に施設の Nrs が大きいことに驚いたと同時に求められるものの大きさを痛感、自分も更に学習が必要と思った。 ・自分自身も学習の場とすることができたと思います。 ・患者の退院後の生活が多少みえたように思いました。 ・今後は退院指導に携わる時、または入院を受け入れる際は今回の研修をふまえ、もっと介護サービスにかかわる人と情報交換を行っていきたいと思います。
3	2	<ul style="list-style-type: none"> ・老健施設の情報も少しは得ることができた。病院から施設に転院する人は少ないので、こちらにとっても刺激があった。 ・相手の方によく伝わったのだろうか、自分を見つめなおす機会になりました。
2	0	
1	0	

表6. 意見・感想 (研修者)

項 目	内 容
研修の準備	
研修方法	・雑誌などでしか見ることのできなかつた機器、材料などを見て取り扱い方法を見学できてよかった。
ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・研修者の皆さんと情報交換ができ今後も継続して相談できると思う。 ・病院と施設それぞれの話になったりして、お互いに理解を深めることができました。

要望	<ul style="list-style-type: none"> ・受け入れ病棟が決定したら研修者に病棟の希望を募るのはどうか。 ・特別な医療行為を見学することができなくて少々残念だった。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・プリセプターの方や班長さん他部署の方々も嫌な顔一つせず説明してくださり、本当に感謝している。 ・積極性に欠けた自分には反省しています。 ・自分を見直す上でも施設全体を見直す上でもよい研修と感じた。 ・今後このような体験できたらもう1回トライしたいと思います。 ・病院の看護師は患者サイドに立った視点で物事をとらえケアしていると、とても感銘を受けました。

表6. 意見・感想 (研修者)

項目	内容
研修の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にプリセプターへのオリエンテーションがあったら、ベストだと思う。 ・研修者の希望する内容が大雑把でなくもっと具体的に事前に知っていれば説明・指導がスムーズだったのではないかと思った。 ・学生の実習と重なり学生にも研修者の方にもマイナスであったと思う。日程を組んでほしかった。 ・情報として目的と経験について詳しくスタッフにも周知させるべきと思った。
研修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟研修の時間がもう少しあれば、よかったと思う。 ・研修時間が短いようで、見学、説明が主となってしまい実施の部分が不足しているように思う。
ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のことをきっかけに今後も情報交換を続けていきたいと思う。
要望	<ul style="list-style-type: none"> ・逆に老健施設の見学・研修したいと思った。 ・講義の日と研修の日と別計画されたほうがよいのではと思う。 ・管理、指導面での業務が大きいようにも感じたので、管理的研修も加えた方がいいと思う。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の研修で時代の流れが変わっているのだと言う事を感じ、役立ってくれたら、と思う。 ・臨床経験が少ないため研修者にうまく説明ができず申し分けないと思った。 ・今後も続けていくことで、現場での情報を生かしてもらえればと思います。 ・病棟は、多忙で十分な実習環境ではなかったかもしれない。

2. インタビュー

1) 研修者のインタビュー

A施設 6名、B施設 5名で、それぞれに行ったグループディスカッションの内容は下記のとおりであった。

(研修者)

1. 研修を通して良かったこと ＜A施設＞

- ・褥瘡の処置や糖尿病のケアなど老健ではそこ止まりの技術であったが、病院に来て改めて最新のものを聞くことによって、とても勉強になった。改めて考える機会になった。
- ・講義を受けた後に、実際に病棟で学んだことを見たり、体験するという点がよかった。
- ・いいことだらけの研修で、100%施設に帰ってから生かせることを全て学習できた。
- ・病棟の皆さんが、数名の入院があり、忙しかったにも関わらず何でも教えてくれて、普段の自分の実習生に対する対応を反省する機会となった。忙しくても笑顔で接するようにしないといけないと感じた。
- ・自分で考える力を得たくて参加したが、病院の現場を体験してよい刺激になった。感染予防やリスクマネジメントとかを見習って施設に持ち帰りたかった。
- ・プロのアセスメントの仕方が自分にとってプラスになった。施設なので、どのようなポイントで医療に搬送すればいいのかという課題があったが、医療現場に要点をつかんだ観察ポイントを伝えることが必要だということ強く思った。
- ・感染防止対策が勉強になった。
- ・糖尿病について今まで勘違いしていたことがわかり、勉強になった。
- ・他の施設の人と意見交換する場があって勉強になった。

<B施設>

- ・施設と病院では大きく違うところはあるが、基本的な部分の患者さん、入所者の方をケアするという部分では変わりがないので、その基本の部分をしっかりやっておけばその施設、病院にあったケアができていくということ、施設でもちゃんとできるものがより明らかに、自分の中でなった。
- ・自分達の看護技術は間違っているのか正しいのかというところでちょっと不安があったが、いろいろ経験させていただいて、私達の看護技術は間違っていなかったという確信が持てた。気づきが多くてよかった。
- ・口腔ケアとか褥瘡ケアでどうしたらいいのか悩む部分がいっぱいあったが、少し解決できるかなと思えた。教えていただいたことを実践して、いい看護とかいい介護をできるように役立てていきたいと感じた。
- ・口腔ケアの改善すべきところを見つけられ、リハビリも参考になった。作業がスムーズに行われるように病院でいろいろ工夫して作っているものもあったので、それも作ってみたいと思った。帰ってから皆に伝えたいことがたくさんあった。
- ・病院と施設では看護の立場が全く違って、病院に来て果たして何を学んだらいいのかというのが正直なところでしたが、施設でも活用できるところがたくさんあって、思った以上に、勉強になった。自分が当たり前だと思っていたことが逆だったことが結構あり、新たな発見があった。
- ・経管栄養も普通に注射器の三方活栓を使ってやっているが、事故が起こるリスクがすごく大きいと気づいたので、そこから改善していかなければならない、事故が起こる前にそれをやらなければならぬと思った。
- ・サマリーについてだったが、病院側が施設に何を求めているか、施設が病院側に何を求めているかという意見交換ができたのが良かった。

2. 研修を通して困ったこと

<A施設>

- ・講義が20分ずつだと、講師の先生も早口で、もう少し細かい内容も聞いてもよかったのかなと思った。
- ・困ったことは特にないが、できればもう一日あれば、病棟をチェンジして見せてい

ただきたいなと思うところもある。

- ・ 4日間あれば2日間ずつ病棟をチェンジして実施でき、自分の課題を学べることもあるのではないか。
- ・ 何やりたいと聞かれても自分でも浮かばなくて、プリセプターさんを困らせたかなと思っている。

3. 研修目標の達成状況

<A施設>

- ・ 自分で質問したかったこともあらゆる面で8割方看護師さんに聞けたので、達成できたかと思う。
- ・ 8割方達成できたと思う。更に考えてなかった部分まで吸収できたり、施設に帰ったらどんどんそれを反映していかなければならないと感じた。
- ・ 8割以上達成できた。
- ・ 目標としてきたものは全部教えていただいた。
- ・ 痴呆への対応については機会がなかったが、その他はいろいろ見れたのでよかった。
- ・ 痴呆の対応を研修希望にしていたけど、病院では治療優先でほとんど拘束という形であり、講義もなかったので残念だったが、希望した内容以上に得たものは多かった。

<B施設>

- ・ 目的の部分で施設における高齢者のケアの質的向上を目指すは、向上を目指す気はあっても、実際にできるかどうかは本当に戻ってからじゃないと言えないので、今は判断できない。2ヵ月後のアンケートでお返事したい。
- ・ 目標が達成されたかっていうと私もちょっと今は判断できない。
- ・ 症状アセスメント、看取りのケア、倫理的判断の3つを重点的に研修で学びたいと思ってきた。言葉遣い一つにしてもちょっと私じゃだめだなって、こちらの働き方を見て思い、自分に欠けているところがすごく見えてきて、私自身はすごく充実した研修でした。

4. プリセプターによる研修体制について

<A施設>

- ・ 見学希望を吸い上げて対応してくれ、またどんどんリードしていただいて助かった。
- ・ マンツーマンというよりは3人を3人でそれぞれリードしてくださった。十分打ち合わせもできたり、学習する機会も与えてもらった。
- ・ 課題に対するサポート、配慮はしてもらった。

<B施設>

- ・ こういうのを見たい、したいと言うとすぐ対応して下さって、また自分たちの休憩時間なんかもずらして対応してくれた。
- ・ 皆、口腔ケアについて詳しく知りたい部分があったので、そのことを1日目の研修が終わった時点で話をしたら、調整をしていただいて、皆と一緒に体験できた。いろいろ細かな調整というか、ここの病棟ではできないけどこっこの病棟ではできるみたいだから、っていうそういうような調整をとっていただいたのですごくよかったですと思います。

5. 研修にあたっての事前準備・調整等

<A施設>

- ・ 少し医学書は見たりした。施設では研修参加のための調整はなく、すんなり参加で

きた。

- ・ 1ヶ月前には研修参加の返事をもらったので、勤務の調整がうまくできた。事前学習をもっとやっておきたかったというのをすごく感じた。
- ・ 施設の看護師長も研修に出ていたので、師長代行をしていたが、研修に参加するため代行をやる人がいなくて、残っている人には迷惑をかけたみたいだが、勉強してきますと出していただいた。
- ・ 今あるマニュアルをきちんと整理して、把握することを事前学習にしてきた。
- ・ 事前学習に記載されていた自分の施設での感染管理とリスクマネジメントを学んで、教科書を繰り返して見てきた。勤務表が出来上がってから参加の返事をいただいたので、変更してもらって参加した。

<B施設>

- ・ 調整はスムーズにいった。1週間とか長くなるとたぶん参加できなかったと思う。3日というのはとてもいい日数だったのではないかな。看護師が3人しかいないので、3日あけるとその間、2人でやりくりしていかなければならない。
- ・ 自分が3日間研修だとやっていけなくなるので、1日は休みにして、あとは研修が終わったら仕事に出る形でやりくりした。

6. コスト、研修期間、実習施設

<A施設>

- ・ 研修費は1万円くらいまで
- ・ 研修期間は3日間くらいが望ましい。オリエンテーションの時間を工夫するなどして、丸2日は実習にあててほしい。
- ・ 3日間という短い期間なので、あれもこれも聞こうと逆に欲がでたかもしれない。

<B施設>

- ・ 急性期のところでは、病院でやっていることで施設に役立てられることって何だろう、何があるかなって悩んだ。
- ・ 3日間だとなんとかやりくりできる。

2) プリセプターのインタビュー

A施設6名、B施設5名で、それぞれに行ったグループディスカッションの内容は下記のとおりであった。

(プリセプター)

1. 研修を通して良かったこと

<A施設>

- ・ 他施設との交流という面では、老健施設の情報を聞けたので、良い情報交換の機会だったと思っている。浴槽などは老健の方が良い設備があることを聞き、逆にそういう設備を見学したいと思った。
- ・ 清潔の援助などを一緒に施行して、慣れていて工夫しながらやっているところを見て、すごく勉強になった。

<B施設>

- ・ 研修目標を頭に入れながらそれに沿って今日は何やりたい、痛みの患者さんのケアを集中的にやりたいんですとか、2日目にはその患者さんのリハビリとか、自分の頭の中である程度計画を立てながらどういうことを聞いていきたいというふうにしなごらいらしたようで、私も勉強になりましたし、指導もしやすかった。
- ・ 新人とか学生を指導するという機会は今まであるんですが、他の施設から看護師が来て研修をするというのは初めての経験で、いい刺激にもなった。